

KIDS SMILE LABO JOURNAL

“キッズ スマイル ラボ ジャーナル”

KIDS SMILE LABO が発行するフリーペーパー。普段 SNS でしか見られない保育園の子どもたちの様子や、子育てに関する情報等、最新情報をお届けします。

Vol.44
2025
FEBRUARY
TAKE FREE



KIDS SMILE LABO の 1 枚。

副園長の森誉さんが選んだ、とっておきの 1 枚を紹介します！

“風に乗って”

赤いロープを握りしめた小さな手
足が地面を離れた瞬間
ふわりと心まで軽くなる

「空を飛んでいるみたい」
頬をなでる風が優しくて
笑い声が広場を満たしていく

まるで雲の上をかけまわるように
わたしの世界がぐるぐる広がる
” また飛びたい” と胸が弾む

大きな木の下
今日も風に乗って遊ぶ
空に近づく、わたしのひととき

photo & text by morimori

JOURNAL TOPIC

01 乳児 CLASS NEWS

かわいい乳児さんの最近の様子は…？
2 歳児はアートの日の活動を振り返ります。

02 幼児 CLASS NEWS

水面・大空・大地クラスの最近のブームはボードゲーム！
子ども同士誘い合い、あちらこちらで楽しむ様子がみられています。
先日の 5 歳児だけの江ノ島遠足もピックアップ！

kidssmilelabo.com



@kidssmilelabo

KIDS SMILE LABO

@kidssmilelabo

@KIDS_SMILE_LABO

from KOMOREBI <0歳児>



もーいいかーい？もーいいよー！

砂場にボール、追いかけてっことなど戸外活動では子ども達が大好きな遊びがたくさんあります。中でも、最近特にみんなが好きな遊びが『かくれんぼ』です。かくれんぼが好きになったのは、絵本「うずらちゃんのかくれんぼ」を読んだことがきっかけでした。鳥のうずらちゃんとひよこちゃんが身体の色や形を上手に使いながら、花や木に隠れてかくれんぼを楽しむという絵本です。読み聞かせを重ねていくうちに、何となくですがかくれんぼのルールを理解し「もーいいかーい？もーいいよー！」や「みつけた！」のセリフもあつという間に覚えて上手に言えるようになりました。そんな絵本を楽しむ子ども達の様子を見て戸外活動でもかくれんぼをやってみることにしました。友だちが隠れるのを待ちきれずに探し始める子、隠れていることに待ちきれず見つかる前に出てしまおう子、隠れているつもりでも身体がまる見えになっている子等々、まだ小さなこもれびクラスならではの可愛らしい一面がたくさん見られるかくれんぼですが、みんなとっても楽しんでいました。

見ている私たちの心をくすぐる姿は、「みつけた！」と友だちを見つけた瞬間や「ばあ！」と出てきた時の子ども達の満面の笑みが最高に可愛いことです！！

毎日の積み重ねから、最近では大人が声を掛けなくても、隠れられる場所を見つけた子ども達が自らかくれんぼを始める姿も見られます。

こもれびクラスで過ごすのも残り1ヶ月となりました。

そよかぜクラスに近くなった子どもたちは、互いに自己主張しながらも、集団での遊びを楽しむ姿も見せてくれるようになりました。子どもたちの成長を感じながら、かくれんぼはもちろん、様々な活動を子ども達と共に最後まで思いきり楽しんで過ごして行きたいと思います。

文 あやや

from SOYOKAZE <1歳児>

やりたい気持ちを言葉に

1月末に開催された LIFE isART 展。その展示の写真の中にお姉さんが絵の具で手や足が緑になっているのを見て、自分も『やりたい』と、気持ちが芽生える子がいました。それなら、その気持ちを叶えようと早速クラスで絵の具の活動を取り入れました。

保育者が活動の準備をしていると、まだか、まだかという気持ちで覗く姿がありました。そして、自分のトレイに好きな色の絵の具を入れ、刷毛やローラーを手にもつと、手や足に塗る子、顔に塗る子、壁にのびのびと表現する子とそれぞれのアートの表現も違い、子どもたちは自分の世界に入ったかのように夢中になる姿が見られました。

今まで何度もクラスで絵の具の活動も取り入れてきましたが、その時にはまだ保育者の膝に座っていたり、手や足が汚れるのが嫌な姿もありました。そんな姿から、写真を見て自分もやりたいという気持ちになり、今まで以上に楽しむ姿をみて、私も嬉しくなりました。子どもたちから届く声を大切にしながら、園のコンセプトでもある『やってみよう！』という気持ちに寄り添い、一緒に楽しんで行きたいと思います。

文 さつとん



from NOBANA <2歳児>

遊びのチカラ

先日のばなクラス最後のアートの日はフットペインティングという、足と絵の具を使って紙の上に表現をしていくというものでした。

造形講師のきこちゃんと事前に打ち合わせをする中で、いつもと違う楽しみ方ができるように道具も用意しておこう！とローラーやハケだけではなく、天井からブランコを設置したり、アトリエにロープを括り付けたり、引っ張ってツルツル滑って描くことができるようにしたりと、と念入りに準備をしていきました。

迎えた当日、登園してからすぐに大きな紙とブランコを見ると、「早くやりたい！」と心を躍らせる子どもたち。普段は設置されていないブランコは目新しく、アートの時間が始まる前から、今か今かと待つ姿が見られました。

アートの時間が始まり、きこちゃんから足を使って描くことを聞いた子どもたちは、足をバタバタさせて喜びや期待が身体から溢れ出るほどでした。バットに入った絵の具に足をつけると、洗濯のりが配合されている絵の具なので、ツルツルと滑る感触が面白いのか、しばらく滑って楽しむ姿が見られました。足の跡がつくこと、滑ること、色が混ざっていくこと、一つ一つの動きから様々な表情を見せてくれる絵の具に、すっかり心を奪われていた子どもたち。しばらく足での表現を楽しんだ後は、ローラーやハケを発見し、道具を使って楽しむ姿も見られました。

しかし、大人が予測していたよりもその時間は、ほんのわずかとなりました。道具の枠を超え、大人に絵の具を塗ってみたい、気に入った色の絵の具で満たされたバットの中に1時間滞在したり、床に寝そべてみたいと、身体一つあれば十分！という光景が広がっていました。始まる前、あんなに楽しみにしていたブランコも、しばらく目を向けることがないほど夢中で遊んでいました。

『絵の具』という素材の魅力だけで、大人の予測を上回るほどじっくりと遊び込み、楽しむことができる子どもたちのチカラに、大人たちが必死で考えた物事は及ばないということを体感じ、「恐れ入りました！」と笑ってしまうほどでした。

1年間のアートの日を終えて

計4回のアートの時間の中で、子どもたちに様々な変化が見られました。最初の方は、手に土や泡などの素材が付くことが嫌だった子も、今回のアートでは嫌がらず参加する姿が見られました。毎回、アートの時間が終わると、大人で振り返りの時間を持つのですが、こういうのが好きそうだな！と苦手な子でも挑戦しやすい時間になるよう。そして自分のペースで楽しめるような表現ができるように、という共通の思いを確認しながら重ねていきました。その想いが通じたのか、少しずつ手を伸ばしてみる姿や、自分のスタイルで参加する姿が見られ、遂に今回のアートの日には全員が参加し、思いおみの楽しみ方で表現するという豊かな時間となりました。子どもたちの気持ちの変化や成長が見られたこと、純粋にアートを楽しみ、自己表現をしている姿に胸が熱くなりました。のばなクラスでのアートの日は終わってしまいましたが、今後のアートの日も自分らしく、ありのまま楽しんで、一人ひとりの好きなことを伸ばして行ってほしいと願っています。

文 みーちゃん



from MINAMO OZORA DAICHI <3・4・5歳児>

テーブルゲームの中で感じる育まれる、 嬉しさや諦めない気持ち

最近子どもたちの中で、少しずつ広まってきているカードゲームやボードゲーム。きっかけはサンタさんからもらったクリスマスプレゼントでした。『オセロ』『マンカラカラハ』『ウノ』があるのですが、あっという間にルールを覚えて、今ではすっかり子どもたち同士で、誘い合って遊ぶ姿が多く見られています。

2人～複数人で遊ぶボードゲームには、もちろんルールがあり、みんながルールを守らないと遊びは成立しません。参加する時の子どもたちは真剣な眼差しで意識を全集中しています。勝った時は「やった！」と素直に喜び、負けた時は「もうやめるー」と遊びを終わりにする子もいましたが、『負けたことが悔しかった、勝ちたい』という気持ちから「やっぱりもう一回する」と徐々に心境の変化も見られ、その姿からは諦めずに挑戦する気持ちが育まれているように感じました。

自分の思い通りにならないことや、勝負することで感じる気持ちの向き合い方。そして、友達や大人と一緒に集まり相手の表情を見ながら会話して遊ぶことの楽しさを、遊びの中から学びどんどん吸収していく子どもたち。この嬉しい変化を大切にしていきたいので、今後も『運』が必要なものや『勝ち負けがないもの』など、新たなテーブルゲームを取り入れ、子どもたちの興味の扉を開き、みんなが楽しめるような時間を考えていきたいと思います。

文 れいじくん

ナンジャモンジャ



MONZA



マンカラカラハ



オセロ



GLASS NEWS

Day1 江ノ島



Day2 絵付け体験



5years
だいち

たいせつなたからもの

今年度はだいちスペシャル遠足ということで、江ノ島へ行くことになりました。当日の予定は、新江ノ島水族館→海でお昼ご飯、海遊び→江ノ島探検。そして次の日は陶芸絵付け体験！と聞いただけでワクワクするようなスケジュールになりました。子どもたちと話した時にも、目を輝かせ「はやくいきたい！」と心躍っている様子でした。行く前に子どもたちとしおりの読み合わせを行い、楽しみなことや目標を書いてみました。担任からの願いを込めて書いた目標は、

1. だいち全員でたくさんのおもいでをつくろう
2. 今までやったことのないたいけんをしよう

の2つです。子どもたちは「いるかしよーたのしみ」「けんかをしない」など、それぞれの遠足に対する気持ちを書いて友達と共有し合い、より一層期待感が膨らんでいきました。

いよいよ遠足当日。約1時間電車で揺られながら、江ノ島に到着。海岸から見た景色には富士山がくっきりと見え、まるでだいちさんを待っていたかのようでした。1人1台カメラを持ち、自分の目に映る景色を写し出しながら歩いていきました。写真を撮っては実際に自分の目で見て楽しみ、しきりに何か感想を言い合い、思い出を心と目に焼き付けているようでした。

海での活動は初めてですが、さすがラボっ子。大自然を目の前に裸足にならずにはいられない！地面を掘って砂の道を作ったり、足湯をつくったりと砂浜の感触を楽しみながらダイナミックに遊んでいました。

子どもたちが楽しみにしていたイルカショー、イルカと握手、シーキャンドル、おべんとうにおやつ…。全てやり尽くした帰りの電車で1人の子がカメラで撮った写真を見ながらこんなことを話してくれました。

子「このしゃん（自分以外のみんなが写っている写真）、なんでとったとおもう？」
大「どうして？」

子「みんなでいったな、っておもいだせるように。」
“だいちさんだけで行く最後の遠足”＝“卒園”ということ子どもたちなりの解釈で、さまざまな気持ちを胸に遠足に臨んでいたことを実感し、胸が熱くなりました。帰ってきてからも「たいせつなたからものになったね」と卒園式でうたう歌の歌詞と体験を重ねながら感想を話してくれました。

たくさんの思い出も、今までやったことのない体験もたくさん詰め込まれていたこの2日間。いつかまた思い出した時に子どもたちの記憶の宝物となってきていたら嬉しいです。今年のだいちさんにしかできない経験を一緒にできたことが私たちにとっても“たいせつなたからもの”になりました。

文 ゆりゆり